

編集後記

本号は「特集」として「悪性腫瘍とリハビリテーション」をとりあげた。最近ではリハビリテーション医療の領域もひろがり、「癌のリハビリ」ということばもしばしばきかれるようになっている。今回は、日常のリハビリテーション診療で当面する悪性疾患について症例を多く手がけておられる先生方に御執筆いただいた。

高藤氏は喉頭摘出後の食道発声訓練の現状をのべておられるが、他のリハビリ訓練とちがって患者団体が主体となって発声練習している場合が多く、病院内での訓練が少ない感じがする。これは日本での言語療法士の不足を反映しているといえよう。蜂須賀らは乳癌術後のリハビリプログラムでは、外科との密接な提携と合併症の予防が最も大切であるとしている。田島氏の論文から骨腫瘍による切断者の最近の動向と治療の変遷がうかがえる。

森谷氏は種々の人工肛門とそのケアの方法を解説して下さった。米国ではストーマ管理を専門とする enterostomal therapist (E.T.) という専門職種が誕生しているとのことである。リハビリ医学の先進国たるゆえんであろう。

特集の最後は柏木氏の論文である。現代医学をもってしてもどうしようもない末期癌患者へのアプローチはどうしたらよいか。リハビリ医療では当然 care と cure は両輪のごとく必要であるが、このような患者にはいかに care の方向づけをするか、また、外国のホスピスの制度などもあわせて解説して下さい。癌患者に病名を告げるべきか否か、日本の国民性、宗教のちがいなど最近いろいろと社会的問題にもなっており、近い将来、この特集の続編というべきものをもう少しつこんだ形でとりあげたいものである。

研究と報告は広川氏他の CP 片麻痺患児の左右差を成人のそれと比較した興味あるものである。

講座は石川氏他の脳アンギオの続き、また上田氏御夫妻による運動発達の「微細運動」編である。我が国での適当な運動発達のテストバッテリーの早期完成を期するものである。

この号がお手もとにとどく頃は忘年会シーズンとおもわれます。連日の飲みつかれがなように御自愛下さい。

(千野 直一)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑雄
大 川 嗣雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲夫
江 口 壽榮夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周一
河 邨 文一郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒雄
橋 倉 一 裕
福 井 閑 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯之吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 敏
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩

(細田, 山田)

次号予告(第8巻第12号)

特 集 義肢・装具

膝離断と膝義足について装着者の

遠隔成績から……………兵庫県リハセンター 澤村 誠志・他

能動手の随意ひらきとじ手：その

機構と臨床応用……………愛媛大・整形外科 首 藤 貴・他

脳卒中の LLB のフォローアップ……………防衛医大・リハ部 石 神 重 信・他

脳性麻痺の装具……………高知県立子鹿園 江 口 壽榮夫

下肢免荷装具の検討……………佐賀医大・整形外科 渡 辺 英 夫

巻 頭 言 リハビリテーション医のスペシャリ

ティ……………神奈川リハセンター 大 橋 正 洋

研究と報告 車イス移動用リフトの開発：屋内

外の連絡用として……………兵庫県リハセンター 奥 英 久・他

講 座 脳卒中(12) 脳卒中と脳シンチグ

ラフィー……………阪大・第一内科 恵 谷 秀 紀・他

運動の発達(4) 評価の方法……………東大・保健学科 上 田 礼 子・他

一 頁 講 座 リハビリテーションと法律(12)

適応訓練……………労働省・業務指導課 河 合 諒 二

解 説 10年間で50%増えた身体障害者：

第6回身体障害者実態調査結果……………厚生省・更生課 板 山 賢 治

第8巻 キーワード・インデックス・第8巻 総目次